

第3章 沼津市における公共交通の課題

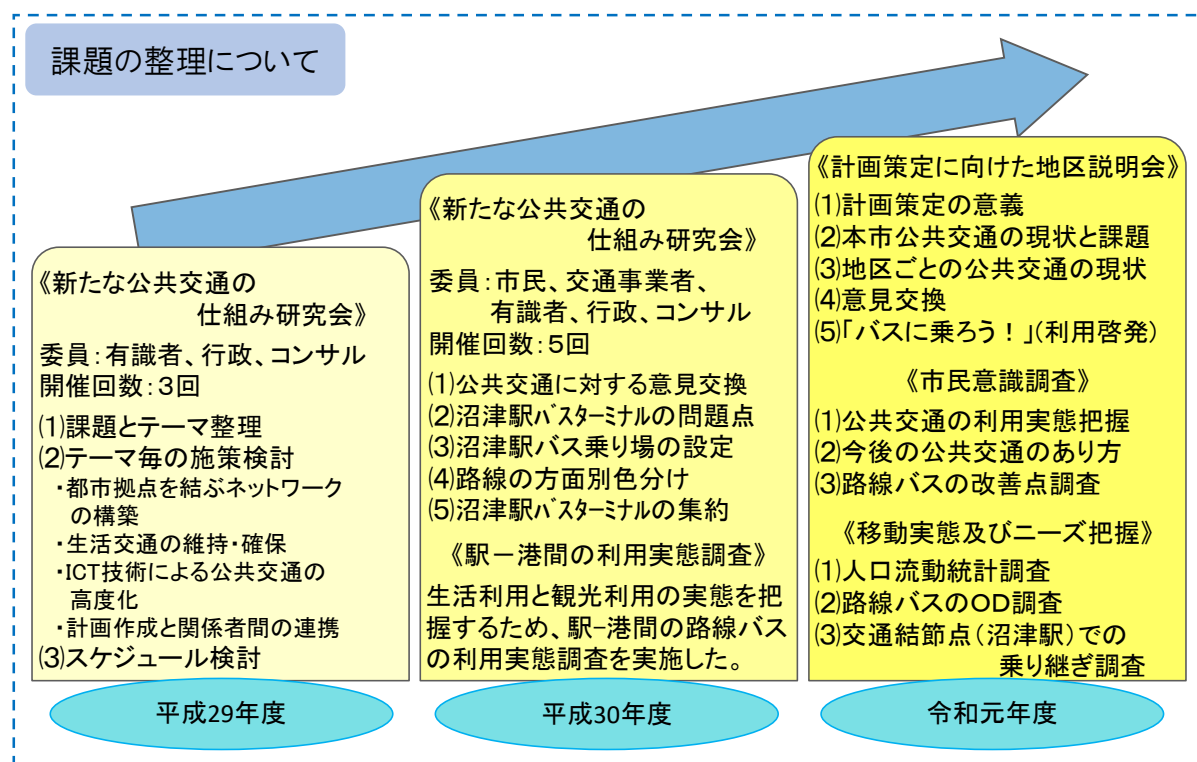
3-1 沼津市における公共交通の課題の整理

平成29年度（2017年度）から、本市の公共交通の課題を精査し、地域公共交通の維持改善さらには都市の活性化・魅力向上を目指し、ICTや新技術を活用した新たな公共交通の仕組みづくりを検討するため「新たな公共交通の仕組み研究会」を立ち上げ、有識者からの意見やワークショップなどを通じて沼津市における公共交通の課題を整理しました。

令和元年度には、市内を6地区に分け「沼津市地域公共交通網形成計画策定に向けた地区説明会」を開催し、地区ごとの公共交通の現状を踏まえて意見交換を行いました。

また、市民意識調査では、公共交通の利用実態や今後の公共交通のあり方、路線バスについて改善してほしい点のアンケートを実施したほか、市民及び観光客等の移動動態やニーズを把握するため、路線バスのOD調査や携帯電話の基地局を活用した人口流動統計調査を実施しました。

頂いた意見や調査結果、近年の社会情勢などを踏まえ、本市における公共交通に関する問題点を整理し、6つの課題にまとめました。



<ワークショップの様子>



<フィールドワークの様子>

沼津市における公共交通の課題
(6つの視点)

- 課題1: 公共交通軸が不明確
- 課題2: 地域内交通が不十分
- 課題3: 利便性向上への取り組みが不足
- 課題4: 事業者間連携が不足
- 課題5: 拠点間の連携が不足
- 課題6: 自然災害や危機事象発生時への準備、対応が必要

以下より、それぞれの課題や対応の必要性について整理します。

○課題1: 公共交通軸が不明確

～中心市街地と周辺地域の公共交通が頼れるものになっていない～

沼津駅から放射状に路線バス網が整備されていますが、事業者間の調整が図られず効率的になっていません。また、バスの運行の遅れが顕著であったり、バスの運行頻度が乏しく、最終バスの運行時間が早いなど公共交通が不便な地域が存在しています。中心市街地と周辺地域において日常的に利用できるよう公共交通軸を明確化し、頼れる公共交通が必要です。

行政から見た問題点	利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・集約、再編により軸を形成し、質の確保（運行時間帯・運行頻度）が求められる ・交通不便地域が存在し、解消が求められる ・事業所集積地の路線確保が求められる ・運転手不足の発生や、赤字路線に起因した路線退出の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地はバスの遅れが多い ・郊外は運行本数が少なく、終バス時間も早い ・人口集積地なのに運行していない地域がある ・重複している路線がありわかりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞により定時性が確保できない ・乗務員が不足している ・狭隘道路があり運行できない地域がある ・路線再編が進まない ・近隣市町を考慮した路線の設定がなされていない



図 3-1 沼津市中心部の路線網・運行便数

※2019年3月時点

○課題2:地域内交通が不十分

～買い物や通院困難者などへの取り組みが不足している～

郊外部では、自主運行バスなどにより路線バスを維持していますが、主要道路を運行しているため、バス停まで距離があるなど、路線バスを利用することが困難な地域が存在し、移動手段の確保対策が不足しています。

このため、路線バスを利用しにくい交通不便地域では、路線の新設や機動性のあるタクシーの活用などラストワンマイルの交通サービスの検討を進めるとともに、市民協働の取り組みが必要となっています。

行政から見た問題点	利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・路線維持の適正化、公正性の確保が求められる ・路線維持のための補助金のあり方検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停までの距離が遠いところがある ・低床車両ニーズへの対応が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> ・機動性のあるタクシーが活用されていない

○課題3:利便性向上への取り組みが不足

～利用者の玄関口であるバスターミナルやバス停が、誰もが使いやすい環境になっていない～

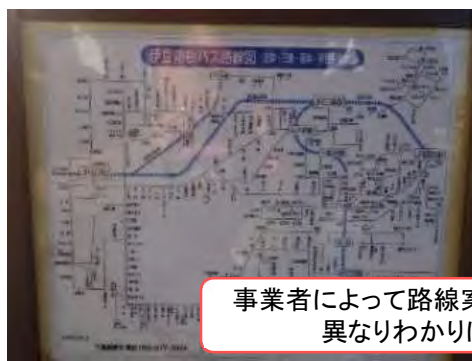
交通結節点となっている沼津駅南口バスターミナルでは、同一の行き先に対して複数の乗り場があるなどわかりづらく、上屋が無い乗り場があるなど、待合環境に課題があります。市内の各バス停についても、同名のバス停が事業者ごと、方面ごとに複数設置されている箇所や、安全に安心して待つことができないバス停が多数あります。

また、バスの運行情報や案内表示が各社により提供され統一感がなく、各社でバスの乗り方、運賃の支払い方法の違いなどもあり、わかりづらく、使いづらい環境となっています。

行政から見た問題点	利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・人が集い、憩える空間が不足している ・利便性やデザイン性のある施設となっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・各交通モードとの乗り継ぎが悪い ・近接した別々のバス停がありわかりにくい ・案内表示がわかりにくい ・乗り場が複数あってわかりにくい ・待合環境の悪いバス停がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・待機スペースが不足している ・乗り継ぎをスムーズにするための事業者間連携が不足 ・バスロケ、ICなどの導入の設備投資が多額となる



沼津港行きは1番2番乗り場から発車(沼津駅)



事業者によって路線案内の仕方が異なりわかりにくい



○課題4:事業者間連携が不足

～提供するサービスや情報等の連携が図られておらず、利用促進効果が限定的となっている～

バス事業者3社のサービス（路線図、時刻表、案内窓口、運行情報の提供、運賃、フリーパス、企画乗車券など）が個別に提供されており、また、各交通事業者間での利用促進策の連携も不足しており、お得で楽しくおでかけする環境が整っていません。

利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・バス案内窓口がどこにあるかわからない ・バスの乗り方が各社で違う ・バスの運行情報がわからない(利用のしやすさやわかりやすさの課題) ・ICカードが使えない事業者がある(支払いのしやすさやわかりやすさの課題) ・高齢者に配慮した情報提供ができていない ・免許自主返納者へのインセンティブが乏しい ・バスの運賃が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者間で連携した利用促進策が不足している ・高齢者を対象とした利用促進策ができていない ・利用促進に対応できる部署や人員が不足している

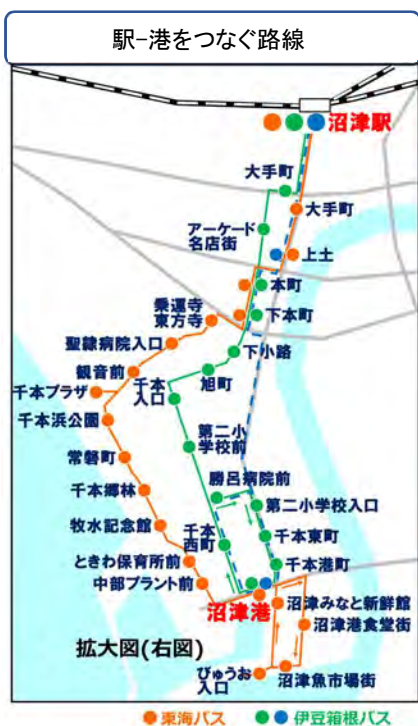
○課題5:拠点間の連携が不足

～沼津駅周辺と沼津港が相互ににぎわいを波及させるための連携が不足している～

都市拠点である中心市街地と、本市のにぎわいの核であり観光交流拠点である沼津港との連携を強化し、駅周辺や本市全体へにぎわいを波及していくことが重要であり、沼津駅と沼津港の結びつきを強化していくことが求められます。

また、沼津港への交通手段は自家用車が最も多く8割を超えています。一方、観光バスは15%、路線バスは3%となっています。渋滞や駐車場不足などの課題もあることから、公共交通への転換を促す取り組みが必要です。

行政から見た問題点	利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・集客拠点(沼津港、ららぽーと沼津等)との連携強化が求められる(にぎわいを市街地へ波及) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光路線バスがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源が点在しているのに観光路線バスがない



事業者ごとにバス停を設置(沼津港)



マイカーでの来訪が多い(沼津港)

○課題6: 自然災害や危機事象発生時への準備、対応が必要 ～公共交通利用の安心、安全確保がますます必要となっている～

近年の豪雨、大規模水害による車両水没、運行への影響など、自然災害へのリスクが高まっています。公共交通機関が安定的に提供されることが、市民等の生活の安心、安全につながるため、日ごろからの災害対策、準備が重要となります。

また、近年のコロナウイルス感染症に代表されるような新たな危機事象などに対して、公共交通利用の安心、安全確保といった視点も求められています。

このように、自然災害や危機事象発生時への準備、対応、公共交通利用の安心、安全確保の必要性が高まっています。

行政から見た問題点	利用者から見た問題点	交通事業者から見た問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における運行の確保 ・利用者の安全性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における運行情報が不足している ・感染症拡大時の車内環境の安全性に不安がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における乗客・乗務員及び車両の安全性の確保 ・道路等の被災情報の迅速な収集が必要